

石クリ通信

7月号

老年泌尿器科学会に参加して

看護師

高山 早苗

今回山形県において行われた学会に参加してきました。山形県にはさくらんぼをはじめ、たくさんのおいしいものがあることを知り、そして学会においては、川嶋みどり先生の講演の中で、排泄に関しての患者様の心理や看護師の意識の変化や、ケア技術の特徴が年代の流れとともにどう変化していったかを学びました。そして「患者と看護師の関係は事をさばく関係ではなく、指示する関係でもなく、共に考え、患者が自身を理解して実行可能な方法を見出す援助を行う」という言葉が心に残りました。排泄は人間の基本的欲求の一つです。Vヘンダーソンは「看護は各人の基本的欲求が充足されるように、自立をめざして生活行動を援助する活動」と述べています。もう一度看護の原点に立ち返り、様々な健康障害を持つ患者様が、少しでも普段の日常と変わらない生活を送れるような援助をめざしてゆきたいと思いました。

女性の活躍

院長

石川 悟

一日半の休みをいただき、日本老年泌尿器科学会（山形）に行ってきました。この学会は高齢者（泌尿器科の患者は老人が多い）の泌尿器疾患について考える医師・看護師・検査技師など多岐にわたるスタッフの学会です。学会長は大学の医学部教授が務めるのが一般的ですが、27回目になる今回は看護学部の教授（看護師、女性）が会長でした。学会発表も女性が多く、洗刺とした女性の活躍が目立ちました。

以前は看護師の発表というが非科学的、本人は理論的なつもりでもちよつと首をかしげるようなものが多かった（失礼！）のですが、最近は問題点を的確に把握して、新しい技術の習得や工夫が見られる発表が増えました。看護学部の教授でも非常に優秀な人が輩出しています。開業してから、ほとんど学会発表はない（共著はあるのですが・・・）ので、そろそろ外部に発信する成果を出したいと考えています。



（写真左端の茶色の建物が学会場、中央の建物が宿泊したホテル）

ルッコラおばさん

事務局長 石川 都

わが家では野菜をたくさん食べる。特に院長は毎食時にまず山盛りのサラダを平らげる。食事の始めにサラダを食べると血糖値の急上昇を防ぎ、ダイエットにもなるそうで、コースがサラダから始まるのは理にかなっているようだ。

最近産直野菜のおいしさに目覚め、東海の「にじのなか」や「幸の実園」の朝市など、生産者直売のものも多く買うようになった。今特に気に入っているのが、近くの鮮魚店の一角で売っている地元野菜コーナーである。大型スーパーのようにいつも同じ品が手に入る訳ではないが、それだけに貴重なルッコラやズッキーニ、国産レモンなどがあると、うれしくて（他の人に悪いと思いつつ）買ってしまふ。なかでもルッコラのおいしさは格別で、ありきたりのサラダが一举にグレードアップする。先日は両手に抱えるほどのセロリの大株と山ほどのルッコラを買っていたら、何にするんですか？ と聞かれてしまった。いつもルッコラ？ ルッコラ！と探しているの、あるいは「またルッコラおばさんが来た」と言われているかもしれない。

夏といえど...

事務 久保 直子

夏が来ました！ビアガーデンの季節です☆ 普段ビールはあまり飲まないのですが、この時期だけは別です！お外で飲むビールはとーっても美味いのですよね！せっかくですから、カラッと晴れた空の下で呑みたいのですが、なかなかお天気に恵まれません。昨年は途中で雨に降られ、ビール片手に屋根の下へ避難しました。なかには、傘を差して呑んでいる強者（女性）もいました。なかには、ビアガーデンは、9月中旬頃まで営業しているそうなので、チャンスがあれば何度か行こうと思います。

思い出せばいいの六月

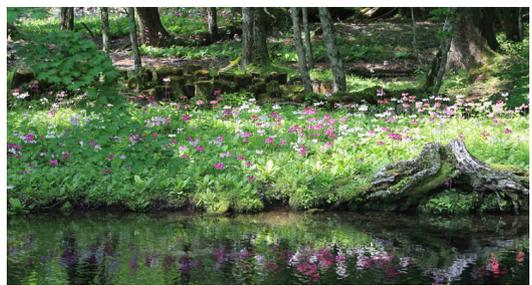
事務 森 絵里子

六月は私にとってイベントづくしでした。まずは山形での学会（事務は遠足☆）。山形は美味いモノがたくさん！特にさくらんぼは絶品！石クリスタッフのさくらんぼ狩りは本気です。限られた時間の中でいかに元を取るか、いかに甘いか、さくらんぼを見つめるか、一気に何個まで口に入るか（笑）。思い出し笑いをくらいつける撮影会でした。そして私の最大のイベントが映画の撮影会です。大好きな映画『進撃の巨人』が実写化され来年公開されます。そのためのエキストラとして、三日間撮影に参加しました。そのために髪の毛を黒く染めるといふ本気ぶり（笑）。場所は高秋の加工紙工場跡。色々語りたいた事がたくさんあります。が文字数が足りなくなるのでやめておきます。追真の演技がカットされていない事を祈ります。☆

思いいたら即実行

看護師 澤田 彰子

主人がある山雑誌の森の楽しみ方という特集記事を見ていて「今度の休みはここね」と言い出し、休日に向かった先は奥日光。記事によると、森のスベシヤリストたちが薦める気持ちいいニッポンの森で、のんびりと自然を観察するの最適と。早朝、中禅寺湖の湖畔を歩くこと一時間半。千手ヶ浜周辺のクリンソウの群生は見事でした。森の木々もミズナラや栃の立派な巨木がたくさんありました。龍頭の滝、千手ヶ浜、西ノ湖、戰場ヶ原まで約6時間のトレッキングでしたが、ほんとうにきもちのいい森でした。



怪談話・その3

薬剤師 石川 恵

皆様いかがお過ごしでしょうか。最近梅雨と言いつつ晴れ間が多くありますが、夕立ち！あれは厄介ですね。突然の雨ですからおそろしく急激に気圧も下がるでしょう。というわけで私もふと振り返ると瀕死のナメクジのような状態です。そんなこんなでだんだんこの話題も似合う季節が近づいてまいりましたが、今回は怪談パート2。

二、「じわじわ系」

これは前回の「（突然出現系）」とは全く対照的なスタイルで、主人公を徐々に追い詰めていくパターンです。小学校に置いてある「学校の怪談」などは、小学生の立場をもつてしてもほとんどが怖くはなかったのですが、幽霊に追われトイレの奥の個室に逃げ込んだ主人公を、幽霊が端からドアを開けて探していき・・・これは幼心にちよつと怖かったです。この手の恐怖は意外に後々まで残ります。さて、次は私が特に推奨する2パターンをご紹介します。

我が家のツバメの巣

看護師 柴田 さち子

ツバメは渡り鳥なので居心地のいい家、いい環境を選んで巣を作る。温度、湿度の条件を考えてもいい家と言える。確かに自然摂理にあった家は風水的にもいい。縁起もいい。県によって言い伝えがあるそうで、茨城県はツバメの巣がかかると吉事があるという。我が家のツバメもいつか旅立つて行くのか毎日気になる。ひなが元気に旅立つことを祈っている。